



な お て る  
**吉田尚照さん** (70歳、西小園)

今月は、神社の絵馬の修復作業に奉仕されている吉田尚照さんをご紹介します。

雄のイチヨウと雌のイチヨウが一本につながりそびえ立つ「夫婦イチヨウ」が在ることで知られる西小園八幡宮。歴史は古く市内でも1、2の歴史を誇る八幡宮です。そこに明治10年頃描かれ飾られている絵馬の修復に、近くにお住まいの吉田さんがあらたられています。きっかけは、吉田さんが平成4年に心筋梗塞に倒れ闘病生活中の気分転換に描いた武者の絵を、たまたま来られた区長さんが見られて「このような絵が描けるのならぜひお宮の絵馬の修復をお願いできないか」と依頼。吉田さんは、一命を取り留めたのも幼い頃から親しんできた八幡宮のおかげも

あるだろうと、健康回復を願い、絵馬の修復を引き受けられました。現在、「36歌仙」36枚のうち、28枚の絵馬を描き終えたところ。息を抑えた細かい作業、そして神様に奉納するものであり、吉田さんは無心になった時、筆を執ります。紙でなく古い板のため、塗料や筆の具合も独自に工夫され、見事な絵柄を蘇えらせました。

「36歌仙」や明治中期に発刊された「小倉百人一首」を参考に、姿形を描き、衣服の絵柄や着色は自分で工夫されたとのこと。絵が一番好きですか？と聞くと、一番は日曜大工と庭木いじりと吉田さん。棚や台などを作るのが好きで、娘さんが開いた工房のギャラリーも納屋を改築して造っており、吉田さんの力作も所々に。屋敷前には不動尊堂と樹齢200年を超える桜の銘木があり、地域の散策の立ち寄り所にもなっています。

病気を患ったことで地域社会に恩返ししたいという気持ちが出てきたという吉田さん。少年補導員の委嘱を受けて26年(現阿蘇地区少年警察ボランティア連絡協議会長)になりましたが、今後も地域の少年健全育成に微力を尽くしたいと言われています。

野焼きから始まる阿蘇の春はもうすぐ、桜のつぼみを見つめ、今はあまり酒は飲め



修復の絵馬と別に、吉田さんが4ヶ月かけ描いた「神宮皇后、光明天皇」の大作。西小園神社に奉納。

西小園八幡宮 ▶



▼修復を終え蘇えった絵馬



▲納屋を改築した二女の智穂さんの工房「桜ころろ窯」のギャラリー。2階には憩いのスペースも。



▲吉田さん宅前にある大桜

なくなっただけけれど、この大桜が咲いたら、今年も地域おこしに頑張っている地元同級生と一緒に花見をしたいな」と友人との談義を楽しみにしている吉田さんです。